

「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

- 1 意見の募集期間 : 令和6年3月5日（火）から令和6年3月19日（火）
- 2 意見の件数等 : 意見件数 22件、 提出者数 2名
- 3 ご提案、ご意見の内容及び意見に対する市の考え方（ご意見受付順）

No.	ご提案、ご意見の内容	市の考え方
1	堀川運河まつりの企画に加える。 1. 「千代ろ舞音（ぶね）」の部 （1）「弁甲節」、「堀川運河」の歌、踊の普及 （2）「堀川運河」唄う歌手・瀬川瑛子さんの観光大使任命 2. 花峯橋のもと「弁口花盛園花だ流し」コンクール ・弁甲いかだの小型のものに花を飾り付けて堀川に流す。 ・花は（イ）スイートピー、（ロ）ほうずき、（ハ）百日草、 （ニ）向日葵、（ホ）ひな菊、（ヘ）ざくろ （戦後、昭和30年代、盛大な花峯地域の「ざくろ祭り」参照） 3. 「ほ・り・か・わ印足軽」仮装行列イベント （鉄砲、長柄、弓組、運河完成の江戸・1685年頃の時代。 平時は石工、土木作業員等。非常時は足軽）	堀川運河周辺の賑わい創出のためのイベント等につきましては、今後、検討していくこととしております。検討の際には、いただいたご意見も参考にさせていただきます。
2	資料館内展示品に、はつり作業の姿を形どった「はつり師人形」と 「はつりヨキ」コレクション。 （堀川の土場で船に積む前に杉丸太を整美した。ヨキは大きく柄の長いマサカリ。）	ガイダンスセンター内の歴史資料の展示内容につきましては、今後、検討していくこととしております。飢肥杉や堀川運河の歴史を継承していきたいと考えていますので、いただいたご意見も参考にさせていただきます。
3	周遊してもらうには公共交通機関の整備も重要では？と思います。レンタカーで来訪される方ばかりではないので現状では不便に思われる観光客も多いと思います。	油津地区には、JR油津駅と宮崎交通のバス路線がありますので、既存の公共交通機関を有効活用できるよう、アクセス情報の発信も検討していきたいと思っています。
4	経済効果から考えると、滞在時間を長くしてもらうのはもちろんですが、宿泊して夜に飲食店に行ってもらうのが一番効果大きいと思うので、宿泊施設の整備、宿泊してもらえるような取組が必要だと思う。	滞在時間の延伸を図るため、まちの周遊や宿泊を促進するコンテンツの導入を検討していくことを計画しております。また、文化財等の既存施設の利活用について、民間主導の体制づくりの検討を計画しております。こういった取り組みを通じて、宿泊施設の整備や宿泊の促進につなげていきたいと考えています。
5	古民家やチョロ船など一回で十分、新規の需要しかないと思う。目玉になる継続してきてもらう施設がない限り人はまず来ない。	油津の歴史文化を継承し、まちの周遊を促進する拠点施設として油津別館の改修を行います。油津を訪れた方が、まず立ち寄ってもらう施設としていきたいと考えています。
6	観光の目的は「食」と考える人が多いと思います。歴史文化もあるのでそこに食が入るともっといいと思います。	「食」は誘客のために重要なコンテンツだと思います。まちの周遊促進策を検討していく中で、地域の飲食店の情報発信など、食に関する魅力も創出していきたいと考えています。

「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

- 1 意見の募集期間 : 令和6年3月5日（火）から令和6年3月19日（火）
- 2 意見の件数等 : 意見件数 22件、 提出者数 2名
- 3 ご提案、ご意見の内容及び意見に対する市の考え方（ご意見受付順）

No.	ご提案、ご意見の内容	市の考え方
7	宮崎県公式ウォーキングアプリ「SALKO」を活用し、数パターンの距離のウォーキングマップを作成。現在3.4kmのコースが既にあるそうです。ポイント制度もあるそうです。県と連携してイベントができると良いですね。	本計画では、「堀川運河周辺の歴史・文化を感じ、居心地のよい歩きたくなるまち」をコンセプトに事業を展開していくこととしています。既存のアプリの活用や県との連携なども踏まえ、多くの方々と一緒に、まちづくりを展開していくことが必要だと考えています。
8	既存の飲食店等に食べ歩きできるメニューを提案してもらいデジタルマップを作る。	既存の飲食店等と連携した周遊促進の取り組みを展開できると、更なる地域の魅力の創出につながると考えられますので、官民一体となった取り組みを推進していきます。
9	観光駐車場の整備が必要。	まちづくりを進めていく中で、駐車場については、必要であると認識しております。今後、場所や規模、人の導線など、様々な条件を加味して、効果的な整備方法等を検討していきたいと考えています。
10	建物の建替え、施設等の整備をするのは構わないが、何十年後には建替え、整備をしないといけない時期が来るので、その為にも収益を生むシステムを構築する必要があると思う。 補助金や寄付金頼りでは限界がある。	施設の維持管理経費につきましては、今後、必ず必要となる経費になりますので、施設の修繕等に過度な負担なく対応できるよう、計画的な施設運営に取り組んでいきます。収益を生むようなシステムにつきましても、考えていきたいと思います。
11	子ども連れ向けの室内大型アスレチック施設があると良い。	子ども連れの方が楽しむことができるという要素は、重要なものだと思います。体験型観光メニューの創出など、訪れた人が楽しめる取り組みを検討してまいります。
12	油津地区へ観光客を呼び込みのために、来訪者の交通アクセス（受入環境）を整備する必要がある。とあり、「周遊：歩きたくなるまち」がコンセプトとして挙げられている。 拠点のガイダンスセンターの整備、案内サインの整備や観光PRは周遊するためには必須であるが、歩いて周遊するためには観光客向け駐車場（ある程度の規模）が必須だと考える。ガイダンスセンターから離れているところに駐車場を整備したとしても全く意味がないので駐車場整備についてもう少し計画段階から頭に入れておくべきではないか。 花峯橋の活用について水辺環境利活用に入っているが保存整備のことを学んで終わりという感じがする。体験メニューにしても水質ありきだと思うので、水質改善活動から市民協同が必要だと感じる。 観光滞在時間を増やすためには「食」が重要な要素だと思うが、計画に食に関する構想がない。食こそ計画の中で深掘すべきではないか。	まちづくりを進めていく中で、駐車場については、必要であると認識しております。今後、場所や規模、人の導線など、様々な条件を加味して、効果的な整備方法等を検討していきたいと考えています。 水辺利活用につきましては、体験型の観光メニューを検討していく中で、水質の問題を整理する必要があると考えています。水質検査により現状を把握するとともに、地域との協働による環境保全活動の推進にも取り組んでいきます。 「食」は誘客のために重要なコンテンツだと思います。まちの周遊促進策を検討していく中で、地域の飲食店の情報を発信するなど、食に関する魅力も創出していきたいと考えています。

「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

- 1 意見の募集期間 : 令和6年3月5日（火）から令和6年3月19日（火）
- 2 意見の件数等 : 意見件数 22件、 提出者数 2名
- 3 ご提案、ご意見の内容及び意見に対する市の考え方（ご意見受付順）

No.	ご提案、ご意見の内容	市の考え方
13	油津の登録有形文化財の点在は、飫肥の伝建地区に比べ注目度・風情が弱く、合わせて老朽化が進んでいる。また、駐車場も少なく、案内看板もあまり見かけない。加えて道路が狭隘のため一方通行の所も多々あり、巡回には歩くか自転車利用となると思うが、文化財にどれほどの魅力があるのかは発信不足である。日田の豆田町は生活道路が町の中心をとっているため、自動車も狭い中走り回っている。徒歩の観光客にとってはあまり安全とも言えないが、歩き回る魅力発信がある。	油津地区には堀川運河周辺を中心に、歴史文化遺産が多くあり、風情のある町並みが今も残っています。整備予定のガイダンスセンターで、地域の歴史や文化、伝統に関する情報を発信し、まちを歩いてもらえるような仕掛けを検討していきます。そのほか、ホームページやパンフレットなどによる情報発信にも努めていきたいと考えています。
14	油津は既に空き家となっている有形文化財もあることから、この活用を図るための家主のまちづくりへの意気込み、または家主から市土地開発公社（？）への売却後、市が保存と事業施設への改修として基金利用もあるのではないかと。資料を見ると登録文化財の家主の考えが尋ねられていないようである。今後、家主はどうしたいのか、どうするのかの視点が欠けていると思う。	文化財や既存施設の利活用につきましては、民間主導による利活用推進の体制づくりを検討していき、民間活力の導入を推進していく計画としています。計画を練る段階において、ご提言の件も考えていきたいと思います。
15	油津はもともと港と商業で栄えた町であるため、観光開発をメインに置くのであれば、クルーザー基地としての油津港の展望、昔のように柳がなびく堀川沿いのように風情のあるまちにしてもよいのではないかと（維持が大変なため撤去したのだろう）。太陽と海、風を感じ、食と潮・漁業の香りを感じて、その場を楽しむ観光ルートがない。観光客はどこにいるのだろうか、どこに行っているのだろうか。	堀川運河やその周辺の歴史、文化を伝えつつ、油津ならではの居心地のよい歩きたくなるまちづくりを進めてまいります。
16	フード関係者からも日南は食事処が少ない、食堂街・ビルもない。食事が好きなものにとっては残念だし不便と聞いたことがある。観光地からは昼食難民がおり食事処を案内するのに困っているとも聞く。体験型観光、着地型観光が乏しい場合の観光の最終手段は「食」しかないのではないかと。夜の飲食を楽しみに来る観光客もいるのではないかと。	「食」は誘客のために重要なコンテンツだと思います。まちの周遊促進策を検討していく中で、地域の飲食店の情報を発信するなど、食に関する魅力創出も検討していきたいと考えています。
17	戸村基金による油津の地域フードのPR、日南市内の農林水産業者と商業、製造業者、飲食店業者との新商品開発費用などソフト事業に取り組んでもよいのではないかと。	まちづくりの推進にあたっては、地域住民や事業者の活動は不可欠なものとなってきます。今回の計画を遂行していく上で、官民一体となった地域の魅力創出を図っていきたくと考えています。
18	油津別館はガイダンスセンターではなく、堀川夢広場とその駐車場一帯を含めて「道の駅」として売り出すべき。道の駅であれば全国に通用する。	現段階では、「道の駅」の機能としての整備は考えておりませんが、地域の方や来訪者が、訪れたいような施設にできるよう、検討を進めてまいります。

「油津の歴史文化遺産を活用したまちづくり計画」（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

- 1 意見の募集期間 : 令和6年3月5日（火）から令和6年3月19日（火）
- 2 意見の件数等 : 意見件数 22件、 提出者数 2名
- 3 ご提案、ご意見の内容及び意見に対する市の考え方（ご意見受付順）

No.	ご提案、ご意見の内容	市の考え方
19	河野家、赤レンガの連結事業などを目指しているのであれば、市の地域再生計画に詳細を記載し、外部資本も取り入れてはどうか。	本計画の実施にあたりまして、それぞれの事業で活用できる有利な財源等がありましたら、有効活用できるように検討してまいります。
20	補助金の受け皿として観光DMOも必要であろう。日南市観光協会には物産振興部もあり、地域商社の機能も持つようにして補助金の受け皿として、合わせて文化財活用と市の観光発展のため事業拡大させてはどうか。	持続的なまちづくりを実現や地域の更なる魅力創出のためにも、民間主導の体制づくりが必要だと考えております。その一つとして、DMOという形もあると思います。その他の法人形態等のメリット、デメリットなどを研究していきながら、体制整備や持続的なまちづくりについて考えていきます。
21	P32の「専門家によるコーディネート業務」の委託については、専門家の役割が非常に重要になります。単なる公募方式ではなく、歴史的建造物を活かしたまちづくりの経験や造詣の深い専門家を国等にも知恵を借りながら、国事業（企業版ふるさと納税の専門家派遣も含む）の活用を行ってください。	本計画によるまちづくりを円滑に進めるためにもコーディネート業務は非常に大切な役割を担うと認識しております。効果的な事業展開が出来るよう、選定方法や役割等の詳細について、現在、検討しているところです。
22	P35の空き家活用事業についての民間主導の体制づくりの検討については、空き家の所有者の意向は勿論、出資者、空き家事業の運営者については、その確保ができるかが大きな課題となると思われる。市内だけでなく、県内、県外も含めて広く検討してほしい。	文化財や既存施設の利活用につきましては、民間主導による利活用推進の体制づくりを検討していき、民間活力の導入を推進していく計画としています。特に、体制づくりについては、幅広い観点で取り組んでいきたいと考えています。